町・竹町・白髪前等の名を生じ、その惣名を木ノ新保というてゐたが、明治四年四月厩町を木新保一番町といひ、それより順次數へて白髪前を六番町といふことになつた。

キノネザカ　木ノ根坂　白山苗市ノ瀬温泉からの登路中、標高一〇〇〇米の急坂をいふ。

キノメタニ　木目谷（キノメタン）　河北郡金浦郷に屬する部落。

キノメタニジヨウ　木目谷城　河北郡木目谷に在つた。越登擥三州志故墟考に、賊將高橋五藤九郎より五代七左衞門までこゝに居たが、その子に至り土民となつたとある。

キバ　木場　能美郡梨津郷に屬する部落。大杉谷方面から産出する材木の集散地だからこの名があるといはれる。

キバガタ　木場潟　能美郡の南に在る潟湖。長さ一四一八米、幅四三六米、周圍五粁六、面積一三八ヘクタール。鯔馬・黄葉・木葉・鬼波・牙潮などの雅名がある。山口記慶長五年八月朔日に、前田利長が軍を進めた時、丹羽長重が足輕を以て木場潮に舟を浮べ、百十挺の銃砲を打懸けたと記す。寶暦十四年の調書に、南方は大圀寺藩領島村・下梨津村が瀕するが、潟は惣べて加賀藩領で、鯉・鮒・鮠・海老・鳥類・眞菰を産するとある。

キハク　既白　俳僧で、別號を雲樵又は雲水房、所居を無外庵といつた。世に既白を加賀の人とするが、菰一重に能登の如悠が『既白法師は能登の産』と書いてゐるから、元來能登人であつたのであらう。希因門下から出で、剛更の孤狸窟に同棲して切磋することも多かつた。能く行脚を好んで菰一重・破れ笠・夕日烏の著があり、その外にも千代尼句集、はいかい松の聲・蕉門昔語などを出し、晩年幻住庵に住し、凡そ安永中に歿した。

キバグチ　騎馬口　朝倉義景が十月十三日附で、岸田苗助に與へた感狀に、去月八日於加賀國能美郡騎馬口合戰之時首一打捕之云々。』とある。この戰は永祿七年であり、騎馬口といふものは木場口であらう。

キバラ　木原　鳳至郡山田郷に屬する部落。

キハラダケ　木原岳　鳳至郡木原の部落北方にある山。高さ二七八米。地質第三紀層。

キハラヅキ　木原月　鳳至郡仁岸郷に屬する部落。

キビヨウ　貴廟　鳳至郡下黒川の内の小字。

キブク　忌服　藩政の時服喪の制、その關係の近くして重きものは、訃を聞くの日より數へて喪に服し、輕き者は發喪せられたる日より算した。後者に在りては訃を聞くより以前の日數を除き、その餘す所の日數を喪に居るのである。

ギヘエ　儀兵衞　陶工。能美郡八幡の人。本多貞吉に若杉窯に師事し、文政六年吉田屋窯に從事し、小野窯の起つた時亦之を助けた。白磁製造の功勞者として知られる。

キホウイン　奇峰院　大圀寺藩主第十一代前田利平の子哲二郎の法號。詳しくは奇峰院夏雲清涼禪童子。

キホヒジヨウ　きほひ城　鹿島郡吉田に在つた。今は城山と云ふが、築主の傳は不明である。

キムラアリヨシ　木村有善　通稱惣兵衞・惣左衞門。享保九年御歩となり、延享三年同小頭新知百石に進み、寶暦十年三十人頭に任いで藩に仕へる。

キムラカイ　木村荄　通稱平六。號は鐸山又は鋤雲。寛政九年先考の俸五十俵を襲いで六組御歩に班した。書を市川米庵に學んで出藍の稱があり、前田齊廣の卒した時その墓誌を撰寫し、諸公子・翁主の筆札亦多く荄を師として學んだ。是を以て祿を增して百五十石に至り、組外に班せられた。嘉永六年六月廿八日歿、臨七十五。男琢、字は子玉家を嗣いだ。

キムラカゲユキ　木村景行　通稱三郎兵衞。前田利家に仕へて八千石を受け、慶長元年九月二日土佐守に任ぜられ、四年卒した。

キムラカズヘ　木村主計　木村加兵衞の子。主計前田利長の偏を得、加恩千七百石に及んだが、後致仕し、慶元の役木村重成と共に大坂に要城して一方の將となつた。次いで再び加賀に來り梅田に住し、その子彌五作・小左衞門の二人は父方のをば碧中村彌五左衞門の氏を冒し、並びに新知二百石を得て後裔連綿した。

キムラカヘエ　木村加兵衞　前田利家に仕へて三百石を領し、その子彦右衞門は渡瀬氏を稱した。子孫相繼いで藩に仕へる。

キムラクザエモン　木村九左衞門　大圀寺藩士。延寶九年父九兵衞（祿四百石）隱居の後を受けて家督を相續し、祿三百三十石を受けた。後盜賊改役並びに切支丹宗門奉行を經、利昌の分知せられた時その家老となり、祿四百石に增し、寶永六年利昌の繼田秀親を上野寛永寺の子坊に刺すや、九左衞門隨從中に在つてその措置當を得た。之より剃髮して資齋と號し、正德三年八月五十八歳を以て歿。

キムラゴンベエ　木村權兵衞　初め高畠石見定吉に仕へて武功があつた。次いで横山山城長知に轉じ、大圀寺の役に鐔ヶ丸一番乘をなし、鑓傷四ヶ所を負ひ、加增二百石を得て四百石となり、元和元年の夏役には雜兵を預けられ、町口で首を取り、岡書丸に入つて鑓を合はせ、前田利常から白銀二枚・帷子二つ・單一つを賞賜せられた。

キムラサンゾウ　木村三藏　前田利家に荒子で仕へ、その近侍となつた。後越前府中に從ひ、百八十石を賜はり、小谷の役・刀根山の役に功を立て、柳ヶ瀬の役に力闘して戰死した。子孫はない。

キムラシゲタネ　木村重種　通稱喜右衞門。父四郎右衞門重員は柴田勝家の臣であつた。重種前田利長に越中守山に召出されて百石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

キムラシゲトシ　木村重俊　通稱藤兵衞。喜右衞門重種の子。慶長元年十五歳にて前田利長の小々將に召出され、食祿二百石、利常の時に至り更に二百石を加へ、延寶元年年老いたるを以て、六十二歳の惟茂右衞門重倚に代番せしめることを請うて、翌二年之を許され、同年歿した。享年九十三。岩ヶ淵暗嘯記の著がある。

キムラジンゾウ　木村甚藏　初めて百五十石を領して組外に班し、享保三年五十石を加へ、源光院附御用人並となり、元文四年九月六十三歳を以て歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

キムラスケベエ　木村助兵衞　初め三郎兵衞。父は織田信長の臣加藤新九郎。助兵衞木村土佐守景行の甥なるを以て氏を改め、前田利長に仕へ、慶長五年祿二百石を受けて利常